

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	児童養護施設 積慶園	施設種別	児童養護施設 (旧体系：)
評価機関名	社団法人 京都ボランティア協会		

平成20年 3月 20日

総 評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念は「積慶園の信条」の中に法人と施設運営の思いを端的に表現されており、入居者（児童）・家族・地域・関係者に信頼と安心感を与えている。</li> <li>・20年以上前から中舎制ではあるが小舎制に等しいホーム制による運営がなされ、各ホームの自主的運営により家庭的、個別的養育がなされていることは高く評価できる。</li> </ul>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生を年間260人余り受け入れをし、社会福祉士・保育士の人材育成に積極的に協力をされている。そして実習生受け入れのための指針・心得・プログラムなどが用意されており実習生を送り出す側に対してや実習生が接する入所者（児童）にも安心感を与えており、またボランティアの受け入れについても実習生の受け入れと同様にマニュアルが整備されている。</li> <li>・入所者（児童）へのサービス提供では、理念に基づいた養護方針・処遇指針・自立支援計画書等の書式類・マニュアル類が整備されており、入所者（児童）の日々の生活の指針として活用し検証・評価見直しが行われ、常に入所者（児童）の成長に合わせた自立支援計画書等への更新がされている</li> <li>・職員の教育・研修に対するサポート体制は、出張扱いとして勤務調整もおこない、費用補助の制度が確立されており職員の向上心の刺激に繋がっている。</li> </ul>
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「積慶園の信条」（理念）が職員の隅々まで浸透しているか心もとない面が感じられ、どのようにすれば職員の日々の活動の糧となりうるのかを模索されることを希望する。</li> <li>・中長期計画はあるかと思いますが、今回の訪問調査時点では目にする事が出来ませんでした。云うまでもなく物事の始まりは理念と基本方針を掲げ、これを基に中長期の事業計画を立て運営・活動するものだと考えます。法人・施設・関係者が計画を良く理解し一丸となって計画の実現に向かわれることが、入所者（児童）・保護者に対してより良いサービスの提供に繋がるものと考えますので是非文章化される事を希望する。</li> <li>・事業は「人なり」と云われますので、より良い人材を確保することは事業の成長を図るには不可欠ですし最重要課題である。優秀な職員を常に確保しておきたいもので、職員をただ増やすと云う計画だけではなく、職員の質をいかに向上させるかと云った視点での「人材の確保・養成」が必要である。事業所としての「職員の質」についての指針を明確に示し、職員自身の向上心を刺激する方策を両者で話し合いながら研修計画などを立て目標に立ち向かい、資質の向上に努めていかれることを希望する。それが入所者（児童）に対してより良いサービスの提供とサポートに繋がるものと考えますので、より具体的な教育方針と研修計画を示していただくことを希望する。</li> <li>・自立支援計画書等への記録の仕方により職員個人の個人差が多くなる様子を、記録の仕方、表現方法などの勉強会や研修等も志向されることを期待する。また支援マニュアル等の点検と整備を常に行うことにより定義や体系化の再確認ができ、そして職員が共有することで安定した入所者（児童）へのより良いサポートに繋がるものとする。</li> <li>・入所者（児童）の満足度・相談・苦情の収集については、入所者（児童）からの直接の訴えが無くとも、入所者（児童）の日々の生活態度・発言などに対して職員は目と耳を傾け心で受け止めていただければ、きっと沢山の「声」を聞くことが出来るものと思えますので、より一層の努力をされることを希望する。</li> </ul>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

# 京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

---

## 【共通評価基準】

# 評価結果対比シート

---

受診施設名	児童養護施設 積慶園
施設種別	児童養護施設
評価機関名	社団法人 京都ボランティア協会
訪問調査日	平成20年2月26日(火)27日(水)

## I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立されている。	① 理念が明文化されている。	B	A
		② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	A	A
	I-1-(2) 理念、基本方針が周知されている。	① 理念や基本方針が職員に周知されている。	B	B
		② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	B	B
I-2 計画の策定	I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。	C	C
		② 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	C	C
	I-2-(2) 計画が適切に策定されている。	① 計画の策定が組織的に行われている。	B	A
		② 計画が職員や利用者に周知されている。	B	B
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	B	A
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	B	A
	I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	B	B
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	B	B

## 【自由記述欄】

・理念は「積慶園の信条」の中に法人と施設運営の思いを端的に表現されており、入所者(児童)・家族・地域・関係者に信頼と安心感を与えている。しかしながらこの「積慶園の信条」(理念)が職員の隅々まで浸透しているか心もとない面が感じられ、いかにして職員の日々の活動の糧となるのか模索されることを希望する。

・中長期計画は有るかと思いますが、今回の訪問調査では目にする事が出来ませんでした。云うまでもなく法人の始まりは理念と基本方針を掲げ、これを基に中長期の事業計画を立て運営・活動するものだと考えます。法人・施設・関係者が計画を良く理解し、一丸となって計画の実現に向かうことが、入所者(児童)に対してより良いサービスの提供に繋がるものと考えますので是非文章化される事を希望する。

・信念・礼節・善行・感謝の信条が明文化され、養育目標として分かりやすく表現されており、毎日の夕方に講話とミーティングをされ信条についても話されていますが、さらに、入所者(児童)の心のよりどころとなるメッセージと、職員にも共有してアピールする取り組みをされては如何でしょうか。

・管理者は、児童養護施設の役割と責任をしっかりと認識され、本来の目的から脱却することなく、入所者(児童)や職員への指導と対応に熱い思いを抱いておられる現状を感じ取りました。

## II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	B	B
		② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	B	B
		③ 外部監査が実施されている。	C	C
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	B	B
		② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	B	C
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B	B
		② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	A	A
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	B	B
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	B	B
	II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A
② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。		A	A	
II-3 安全管理	II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。	① 緊急時(事故、感染症の発生時など)の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	B	B
		② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	B	B
II-4 地域との交流と連携	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	B	B
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	B	B
		② 関係機関等との連携が適切に行われている。	B	B
	II-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。	① 地域の福祉ニーズを把握している。	B	B
		② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	B	B

## 【自由記述欄】

・事業は「人なり」と云われますので、より良い人材を確保することは事業の成長を図るには不可欠ですし、最重要課題である。優秀な職員・非常勤職員を常に確保しておきたいもので、職員・非常勤職員をただ増やすと云う計画だけではなく、職員・非常勤職員の質をいかに向上させるかと云った視点の「人材の確保・養成」が必要である。事業所としての「職員・非常勤職員の質」についての指針を明確に示し、職員・非規職員自身の向上心を刺激する方策を両者で話し合いながら研修計画に反映し目標に立ち向かい資質の向上に努めていかれることを希望する。それが入所者(児童)に対してより良いサービスの提供とサポートに繋がるものと考えますので、より具体的な教育方針と研修計画を示して頂くこと希望する。

・情報を早期に入手され、報告・通達されていますが、しかし、経営に対する分析をし改善するまでには至っていない。法の改正等が予測される中、今後は、管理者・職員・非常勤職員が一丸となって取り組むべき課題でもあり、非常勤職員が会議等にも参加できるような配慮も希望する。

・職員・非常勤職員の教育・研修に対するサポート体制は、出張扱いとしたり勤務の調整をおこない費用補助の制度が確立されており職員・非規職員の向上心の刺激に繋がっている。

・実習生を年間260人余りの受け入れをし、社会福祉士・保育士の人材育成に積極的に協力をされている。そして実習生受け入れのための指針・心得・プログラムなどが用意されており実習生を送り出す側に対してと、実習生が接する入所者(児童)にも安心感を与えており、またボランティアの受け入れについても実習生の受け入れと同様にマニュアルが整備されている。

## Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-1(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	B	A	
		② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	B	B	
	Ⅲ-1-1(2) 利用者満足の上昇に努めている。	① 利用者満足の上昇に意図した仕組みを整備している。	B	B	
		② 利用者満足の上昇に向けた取り組みを行っている。	B	B	
	Ⅲ-1-1(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	B	B	
		② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	B	B	
		③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	B	B	
	Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-1(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	B	B
			② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	B	B
③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。			B	B	
Ⅲ-2-1(2) 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。		① 個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	B	B	
		② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	B	B	
Ⅲ-2-1(3) サービス実施の記録が適切に行われている。		① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	A	A	
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	B	A	
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	B	B	
Ⅲ-3 サービスの開始・継続		Ⅲ-3-1(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	A	B
	② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。		B	B	
	Ⅲ-3-1(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	① 事業所の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	B	B	
Ⅲ-4 サービス実施計画の策定	Ⅲ-4-1(1) 利用者のアセスメントが行われている。	① 定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	B	B	
		② 利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している。	A	A	
	Ⅲ-4-1(2) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。	① サービス実施計画を適切に策定している。	B	A	
		② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	A	A	

## 【自由記述欄】

・入所者(児童)には入所時に「子どもの権利ノート」を使って確実な情報の提供に努められることを期待する。

・入所者(児童)の満足度・相談・苦情の収集については、入所者(児童)からの直接の訴えが無くとも、入所者(児童)の日々の生活態度・発言などに対して職員は目と耳を傾け心で受け止めていただければきっと沢山の「声」を聞くことが出来るものと信じますので、より一層の努力をされることを希望する。

・入所者(児童)へのサービス提供では、理念に基づいた養護方針・処遇指針・自立支援計画書が作成されており、マニュアル類も整備されており書式類も整っている。

・支援マニュアルの点検と整備を行うことにより定義や体系化の再確認ができ、そして職員が共有することにより安定した入所者(児童)へのより良いサポートに繋がるものとする。

・自立支援計画書が適切に作成されており、入所者(児童)の日々の生活の指針として活用し検証・評価・見直しが行われ常に入所者(児童)の成長に合わせた自立支援計画書への更新がされている。

・自立支援計画等の記録の仕方については職員によって個人差が大きくなるように表現方法などの勉強会や研修等も志向されることを期待する。

# 京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

---

## 【付加基準】 評価結果対比シート

### 児童養護施設

---

受診施設名	児童養護施設 積慶園
施設種別	児童養護施設
評価機関名	社団法人 京都ボランティア協会
訪問調査日	平成20年2月26日(火)及び27日(水)

## 【付加基準】児童養護施設版 評価結果対比シート

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A-1 利用者の尊重	(1)利用者の尊重	① 子ども自身が自分たちの生活全般について自主的に考える活動(施設内の自治会活動等)を推進し、施設における生活改善に向けて積極的に取り組んでいる	A	B
		② 施設の行う援助について事前に説明し、子どもが主体的に選択(自己決定)できるように支援している	B	B
		③ 多くの生活体験を積ませる中で、子どもがその問題や事態の自主的な解決等を通じて、健全な自己の成長や問題解決力を形成できるように支援している	B	B
		④ 多くの人たちとのふれあいを通して、子どもが人格の尊厳を理解し、自他の権利を尊重し共生ができるよう支援している	A	A
		⑤ 子どもの発達に応じて、本人の出生や生い立ち、家族の状況等について、子どもに適切に知らせている	A	A
		⑥ 体罰を行わないよう徹底している	A	A
		⑦ 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切な関わりの防止と早期発見に取り組んでいる	A	B
		⑧ 子どもや保護者の思想や信教の自由は、他の子どもや保護者の権利を妨げない範囲で保障されている	A	A

## 【自由記述欄】

・日常の支援は入所者(児童)の人格を尊重して遂行されている。  
 ・入所者(児童)は全体の比率として低年齢化しており、知的、情緒障害等複雑な事情をかかえている入所者(児童)が多数を占める中で、個別の対応は臨床心理士を含めカンファレンスで丁寧になされている。  
 ・入所者(児童)の自主的解決、自己決定の力量形成を養っていくために発達段階も考慮しながら自治会の組織化を希望する。

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A-2 日常生活支援 サービス	(1)援助の基本	① 子どもと職員との間に信頼関係を構築し、常に個々の子どもの発達段階や課題に考慮した援助を行っている	A	A
		② 子どもの協調性を養い、社会的ルールを尊重する気持ちを育てている	A	A
	(2)食生活	① 食事をおいしく楽しく食べられるよう工夫し、栄養管理にも十分な配慮を払っている	A	A
		② 子どもの生活時間にあわせた食事の時間が設定されている	A	A
		③ 発達段階に応じて食習慣を習得するための支援を適切に行なっている	A	B
	(3)衣生活	① 衣服は清潔で、体に合い、季節にあったものを提供している	A	A
		② 子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように援助している	A	A
	(4)住生活	① 居室等施設全体が生活の場として安全性や快適さに配慮したものになっている	A	A
		② 発達段階に応じて居室等の整理整頓、掃除等の習慣が定着するよう援助している	B	B

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A-2 日常生活支援 サービス	(5)衛生管理・健康管理・安全管理	① 発達段階に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理ができるよう支援している	A	A
		② 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している	A	A
	(6)問題行動に対する対応	① 子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に適切に対応している	A	B
		② 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている	A	B
		③ 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体に徹底している	A	A
	(7)自主性・自律性を重視した日常生活	① 行事などのプログラムは、子どもが参画しやすいように計画・実施されている	B	A
		② 休日等に子どもが自由に過ごせるよう配慮している	A	A
		③ 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している	A	A
		④ 子どもが友人や地域との関係を深められるよう支援している	B	A
	(8)学習支援、進路指導等	① 学習環境の整備を行い学力に応じた学習支援を行なっている	A	A
		② 学校を卒業する子どもの進路について、「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう援助している	A	A
		③ 職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる	B	B
		④ 子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている	B	A
	(9)メンタルヘルス	① 被虐待児など心理的なケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行なっている	A	A
	(10)家族とのつながり	① 児童相談所等と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりができています	A	A
		② 子どもと家族の関係づくりのために面接、外出、一時帰省などを積極的に行なっている	A	B

## 【自由記述欄】

・日常生活は異年齢の小集団によるホームを中心に営まれ、各ホームは担当職員中心に運営、設備など工夫されており、家庭的、家族的な生活体験を積み重ねていけるように個別性を配慮した支援が行われている。  
 ・ボランティアを積極的に導入して学力に応じた学習支援や年齢、発達に応じた性教育を実施されていることは入所者(児童)が学校や社会の中での自信回復に繋がっていくものと思われ、継続していかれることを期待する。  
 ・入所者(児童)と保護者との関係においては、児童相談所と協議の上で実施されていますが、今後は強引な引き取りや面会、一時帰宅等への対応について施設としての規定やマニュアルを定められ、さらには親子で宿泊出来る部屋を用意されることを期待する。。